

会 議 録

会議名	令和4年度 第3回豊田市入札監視委員会		
日 時	令和5年2月17日(金) 午後1時30分～午後3時5分		
場 所	豊田市職員会館 2階 第1会議室		
出席者	委員長 曾我部 博之	総務部	副部長 塚田 良
	委 員 河野 伊知郎		検査監 田中 一弘
	岡田 千絵	契約課	課 長 加藤 純也
			副課長 福岡 宏泰
			担当長 岸上 和美
			担当長 山口 敏宏
			担当長 鶴田 智之
		上下水道局総務課	課 長 下川 涼太郎
			副課長 成瀬 孝紀
		主 査 三宅 寛貴	

1 総務部副部長あいさつ

2 報告事項

(1) 令和4年度第3四半期の契約状況

◇市長部局

質 問	回 答
建設工事について、不調・不成立の発生率が昨年度と比較して減少しているが、電気代や資材の高騰等に対してどのように対応しているか。	発注段階では最新の単価で積算をしている。また、発注後には、スライド条項の適用等で対応している。
業務委託・労働者派遣について、指名競争入札の平均落札率が低い、何か原因があるのか。	業務委託・労働者派遣の一部を除く業種では、最低制限価格がなく、入札価格が安い場合にはそのまま落札価格となる。
労働者派遣の業種別平均落札率が低い、何か原因があるのか。また、こちらは、何件の平均落札率か。	受託事業者が派遣労働者に支払う金額を節減して低くなったのではないかと考える。実績1件の結果である。

◇上下水道局

質 問	回 答
上下水道局発注分について、土木一式工事で不成立が発生しており、技術者不足が要因であると説明を受けた。一方、水道施設工事では不調・不成立が発生していない。水道施設工事では技術者不足の影響を受けていないのか。	水道施設工事は、土木一式に比べ入札参加者数が多いことが不調・不成立の発生が抑えられた要因であると考えている。また、上下水道局では発注時期の平準化が進んでおり、この平準化の取組によって不調・不成立の発生が低く抑えられていると考えている。
令和4年度は昨年度と比較して契約金額の	水道管を布設替えする際に耐震管へ順次、更

合計が大きく増加しており、その要因の一つとして耐震化であると説明を受けた。現在、耐震化の状況はどうか。	新している。
物品売払について、予定価格を下回った場合はどのような取扱いとなるのか。	物品売払について、予定価格を下回った場合は不調となる。

(2) 入札参加停止等の状況
入札参加停止の決定について

質 問	回 答
特になし。	

3 審議事項

(1) 令和4年12月議会案件

質 問	回 答
維持管理付工事発注方式について、同方式で発注することのねらいは何か。	施工後の維持管理についても価格競争することをねらいとしている。

(2) 委員選定案件

質 問	回 答
小学校トイレ改修工事の入札結果を見ると、入札価格において、それ程大きくないと思われる物品の価格差以上の差が生じている。何か原因があるか。	入札価格のうち設備関係の費用が多くを占めていると考えられ、設備関係の下請金額によっては入札価格が低くなることが考えられる。
プロポーザルの選考委員は、どのような者が選任されているのか。	プロポーザルを実施する担当課が選任しているが、市役所内部の委員としては、当該担当部局及び関係する他部局の管理職が多いため、契約課では、公平中立を保つため、外部の方も含め5名以上で選考するように周知している。
「豊田市電子契約システムライセンス」の入札価格が低価格となっているが、この原因は、事業者が次回の随意契約を見込んでこの価格になったものか。	仕様書で他ベンダーへの乗換えが困難とならないように措置を講じているが、利用結果を踏まえ、次回、随意契約となる可能性はある。事業者のねらいの1つとして、豊田市での受託実績を今後のPRに活用することにあるのではないかと考えている。
「軽貨物自動車（農業用）」の購入案件について、ドライブレコーダーは機種を指定しているが、車両も機種を指定しているのか。	車両については、トヨタ自動車又はダイハツ自動車を基準品として指定している。
同一の参加事業者であっても、案件によって評価値が異なるが、この原因は何か。	案件に応じて加点対象として求める施工実績や地域点を付す地域が異なるため、その結果、案件によって同一事業者であっても評価値が異なることになる。
IP無線機の買入について、IP無線機とは	漏水等が発生した際、漏水現場で写真又は動

質 問	回 答
どのような無線機なのか。	画を撮影し、インターネットを経由し複数人がリアルタイムに閲覧共有することができる等、多くの機能が備わった無線機である。

(3) 契約事務における主な取組

質 問	回 答
「工事成績評定による入札参加制限」制度を適用する建設工事は、一部の工種か。	全ての工種について適用する。なお、参加制限される工事は、該当工事と同一工種の工事となる。
「工事成績評定による入札参加制限」制度を設けた契機は、何か。	業務改善の意識を高め、品質の維持・向上を図るために設けたものである。
工事成績評定の項目は、どのようなものがあるか。	評定項目は多数あり、主には、設計通りのものができているか、品質管理がされているか等の観点となる。

4 その他

- ・ 令和4年度意見具申に向けた意見の集約について
令和5年3月1日（水）が委員からの素案提出期限
- ・ 第4回委員会の開催予定について
令和5年3月22日（水） 午後2時から